

生活路線から観光路線へ 考えよう、 吉都線の未来。

ハッシンコバヤシ!! フォトコンテスト優秀賞
「水鏡」(撮影者:むらしげさん)

転換期を迎える吉都線

JR吉都線が、令和4年10月1日に吉松駅(鹿児島県湧水町)―小林駅開通110周年を迎えました。

小林駅の開業は大正元年。以来、鹿児島や熊本・福岡方面へ鉄道で向かう重要な路線として、私たちの生活を支えてきました。現在も、地域住民、特に通学生にとって重要な移動手段となっています。

しかし、吉都線利用者数は人口減少や自家用車の普

より早くより遠くへと私たちを運ぶ路線として発達してきた吉都線。しかし、人口減少や自家用車の普及などにより、利用者は大きく減少。今、大きな転換期を迎えています。

今回の特集では、昨年12月14日に文化会館で開催された「吉都線110周年記念シンポジウム」の基調講演やパネルディスカッションをもとに、吉都線の未来を考えるヒントを探ります。

●問=企画政策課 Tel 23-0456

及などで年々減少。さらに、コロナ禍の影響もあり、厳しい状況が続いています。

生活路線から観光路線へ シンポジウムからヒントを探る

一方で、昨年10月から12月にかけて、豪華寝台列車「ななつ星in九州」が吉都線に初入線。たくさんの方がお出迎えするなど、明るい話題もありました。

吉都線は沿線住民の足としての役割だけでなく、観光資源としても大きな役割を持っています。

今後とも吉都線を守っていくためには、吉都線を生活路線はもとより観光路線としても充実させていく取り組みが重要です。

昨年12月14日に開催された「JR吉都線110周年記念シンポジウム」では、「吉都線は地域観光の架け橋になり得るか」というテーマで、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

次のページでは、その概要を紹介します。



小林駅や西小林駅で豪華寝台列車「ななつ星in九州」を出迎える沿線住民や児童・生徒。ななつ星in九州は令和4年10月～12月にかけて吉都線内を運行。吉都線に初入線した10月20日には、約600人が小林駅横の中央ふれあい広場に集まり、小旗やバルーンなどを持って列車を歓迎しました。

鳥塚亮氏 profile 2009年に公募でいすみ鉄道（千葉県）の代表取締役社長に就任。昭和の国鉄形ディーゼルカーの導入や、ムーミン列車や伊勢海老列車などさまざまな観光列車をプロデュースし、いすみ鉄道を一躍全国区に押し上げた。2019年9月からはえちごトキめき鉄道（新潟県）の代表取締役社長に就任。



「全国で鉄道を「乗って残そう」という活動が行われてきたが、上手くいっていない。大事なものは地域が栄えること。そのためにいすみ鉄道を「地域を有名にする広告塔」にしようと考えた。廃車になるディーゼル車両を安く譲ってもらい走らせると、元国鉄の路線に元国鉄の車両が走るということで、都会からたくさんの人が写真撮りに来た。都会の人は新しいものだけでなく、古いものにも価値を感じる。写真を撮りに来るだけでは運賃収入にならないが、地域に人が来ることは地域にとって必ずプラスになる。

今は、ガイドブックに載っていない場所を探す人が10人に1人はいる。良さが分かる一握りの人たちに来てもらえればいい。都会の人に「いいところですね」「いい景色ですね」と言われたら、地域の人の意識も変わる。

わってくる。都会の人の心をわしづかみにする写真が1枚あれば、田んぼの真ん中が季節を問わず観光地になる。日本のどの田舎にだってチャンスがある。

伊勢海老や新鮮な刺身が食べられる伊勢海老列車やお刺身列車を走らせると「いつかは乗ってみたい」という声が出てくるようになった。列車が憧れの対象になった。山が綺麗に見える西諸の風景に吉都線が走る姿は絶対に絵になる。行ってみたいと思える地域になる。鉄道は地域の足というだけでなく、人を呼ぶツールになり、地域に人がくれば地域が潤う。これが今の時代に合った新しい鉄道の使い方ではないか。

西諸地域は焼酎やおいしいものがいっぱいある。そういう魅力があつて、「ななつ星in九州」がきた。沿線であくさんの人がお出迎えしたと聞いたがこれはすごいこと。地域と鉄道会社が一体になって生まれる相乗効果を使つて吉都線を憧れの場所にすることができたら、面白いことになるのではないかな。

ローカル鉄道は地域のシンボルになる。これを忘れず20年後30年後に人を呼ぶ鉄道、人を呼ぶ地域になっていただければ。



田代剛氏 (ファシリテーター) …鉄道好きが高じ、フリー鉄道アナウンサーとしてJR九州や各自治体と連携して鉄道の利用促進に取り組む。JR 吉都線応援大使。 …
鳥塚亮氏 (パネリスト) プロフィールは4ページ上部に記載。**宮原市長** (パネリスト) …平成6年設立のJR 吉都線利用促進協議会は、沿線地域の魅力を広く発信し、吉都線の利用促進・発展を目指して活動している。**吉村会長** (パネリスト) …吉都線に観光列車を呼ぼう！小林実行委員会の前身である吉都線 100 周年記念事業小林市実行委員会から会長を務める。「子育て応援列車」や地元高校生と連携した「高校生発案おもてなし列車」を企画するなど、利用促進に向けて積極的に活動中。

吉村会長 「ななつ星in九州入線はスタート。これからも吉都線の価値を磨いていく。」

赤字だからローカル線は不要ということはない。吉都線を守るため、生活路線から観光路線に転換する旗振り役を今後も続けていきたい。

肥薩線や日豊本線とつながっている強味を活かし魅力を掘り起こせば、環霧島で新しい価値が生まれる。霧島ジオパークを絡めて環霧島を巡るツアーをしてもいい。車両を国鉄カラーに変えるというアイデアもある。今回のななつ星in九州おもてなしの経験を活かせば、お客さまに満足してもらえるのでは。

100周年からの10年、吉都線はいつ止まってもおかしくない状況だった。ななつ星in九州のおかげで吉都線は延命できたが、ここからがスタート。「輝く未来きつとある」これをずっと思つて10年間活動してきた。これからも吉都線の価値を磨き、次の世代に引き継いでいきたい。

宮原市長 「住民と自治体が当事者意識を持ち、事業者と連携して未来を開く。」

吉都線のおかげでななつ星in九州という感動を体験で

吉都線は地域観光の架け橋になり得るか

2022.12.14 文化会館

J R 吉都線 110 周年記念
吉都線シンポジウム

「ななつ星in九州」は、2013年9月に運行を開始した日本初の豪華寝台列車。「新たな人生にめぐり逢う、旅。」をコンセプトに、人と人との新しい出会いを感じる、めぐり逢いに溢れた旅を目指している。

新しい商品づくりにあたり、豊かさについて考えてきた。贅沢とは煌びやかなものではなく心が満たされることで、心が動くような体験が記憶に刻まれていくということではないか。

昨年10月から新たなコースをスタートするにあたり「100年をこえる物語をつなぐ。」という新しいテーマを設定し、コースをつくるために九州各地に何度も足を運んだ。たくさんの人たちと会話を交わし、いろいろな想いや歴史、語り継がれてきた伝統などの話を伺うことができた。

九州は本当に素晴らしいものに溢れていて、素晴らしい人たちがたくさんいる。手間暇を惜しまず、これをしつかりと未来に残していきたいという想いで、1年近く時間をかけてコースを作った。

新しいコースを作るにあたっては、小林市でも素晴らしい食材や素晴らしい人たちとの出会



小川聡子氏 profile 大手航空会社で客室乗務員として勤務したあと、2012年に豪華寝台列車「ななつ星in九州」のクルー1期生としてJR九州に入社。客室乗務員としての経験などを活かし、「ななつ星in九州」立ち上げに貢献。

き、鉄道の良さ、ありがたさを再認識できたのでは。

事業者任せではなく、沿線住民・自治体が当事者意識を持つことが重要。吉都線サポーター制度を活用して事業を展開し、地域の人や都市部の人にワクワクしてもらえる企画を提案していきたい。

昨年、吉都線とウオーキングを組み合わせた「ひと駅ウオーク」を行った。普段車で走る場所を列車やウオーキングで通ることで改めて地域のよさが分かる良い企画だった。沿線地域の魅力と鉄道を上手く組み合わせることが重要。今後は、日南線・肥薩線との連携や沿線自治体とも連携を深めていきたい。

日常の吉都線活用について、アイデアを活かすことが大事。沿線自治体と一緒に新しいアイデアを出し、事業者とうまく連携を図ることで、地域の未来を開いていきたい。

鳥塚社長 「観光路線としてゼロベースの吉都線。あとは積み上げていくだけ。」

自分たちの地域の得意分野と都会の人が求めることが交わった部分が観光コンテンツになる。今は、吉都線に観光

「ななつ星in九州」が再び吉都線へ！

豪華寝台列車「ななつ星in九州」が、3月～8月の期間に再び吉都線に乗り入れます。一緒にお出迎えしませんか。沿線で見かけた際もぜひ手を振ってお見送りしましょう。

運行スケジュール

3月16日、3月23日、4月20日、4月27日、5月18日、5月25日、6月15日、7月20日、7月27日、8月10日、8月24日

※西小林駅は13時20分頃、小林駅は13時28分頃に通過予定

※スケジュールは変更になる場合があります

路線というイメージはほとんどない。だからこそ可能性がある。

まずは、列車本数や時間が観光に合うか。例えば休日のこの時間に列車を走らせてほしいと具体的なお願いをしてみる。それに特別なヘッドマークをつければ、それを見に来る人、乗る人が増えるかもしれない。

山に雪が降る、田んぼに水が入る、稲が実るといった風景が、鉄道とあわせると観光につながる。一年をとおして人が来るという仕組みづくりも、鉄道ならばできる。

遠くから人を呼ぶばかりが観光ではない。鉄道とお酒は相性がいい。地元の人が地元の食材・お酒を味わいながら地元の列車に乗るのもひとつの観光。そういう使い方の提案をしていくことも大事。

この地域で1日過ごして夕暮れを見て、朝を迎えてみたいという人が絶対いる。そういう人たちをどうやってお客さんにするか。鉄道は意外と簡単にそれができる。

考えよう、吉都線の未来。

シンポジウムでは、吉都線の未来を考えるうえで重要なヒントが数多くありました。

今年の10月8日で吉都線は全線開通110周年を迎えます。地域のシンボルでもある吉都線を守るのは私たち自身です。今こそ考えよう、吉都線の未来。

いがあつた。この地域の人たちと一緒にならば、素晴らしい旅を作ることができると感じた。ななつ星in九州のお客さまを沿線に案内できるのは、地域の力があつてこそ。これは皆さんに自信を持っていただきたい。

何よりも私が一番驚いているのは、自治体を超えたつながりがこの場所にはあるということ。それがひとつの大きな力になっているのも間違いない。

旅をするときに、人はなにかしら願いや想いを持っている。その想いを叶える、人の心を動かす。それが、ななつ星in九州で叶えたい旅のスタイル。

誰かの日常は誰かの非日常。皆さんが暮らしているこの普通の日常も特別なものだ意識して大切にしていきたい。西諸地域の驚きや感動、自信と誇りを一緒に輝かせていきたい。